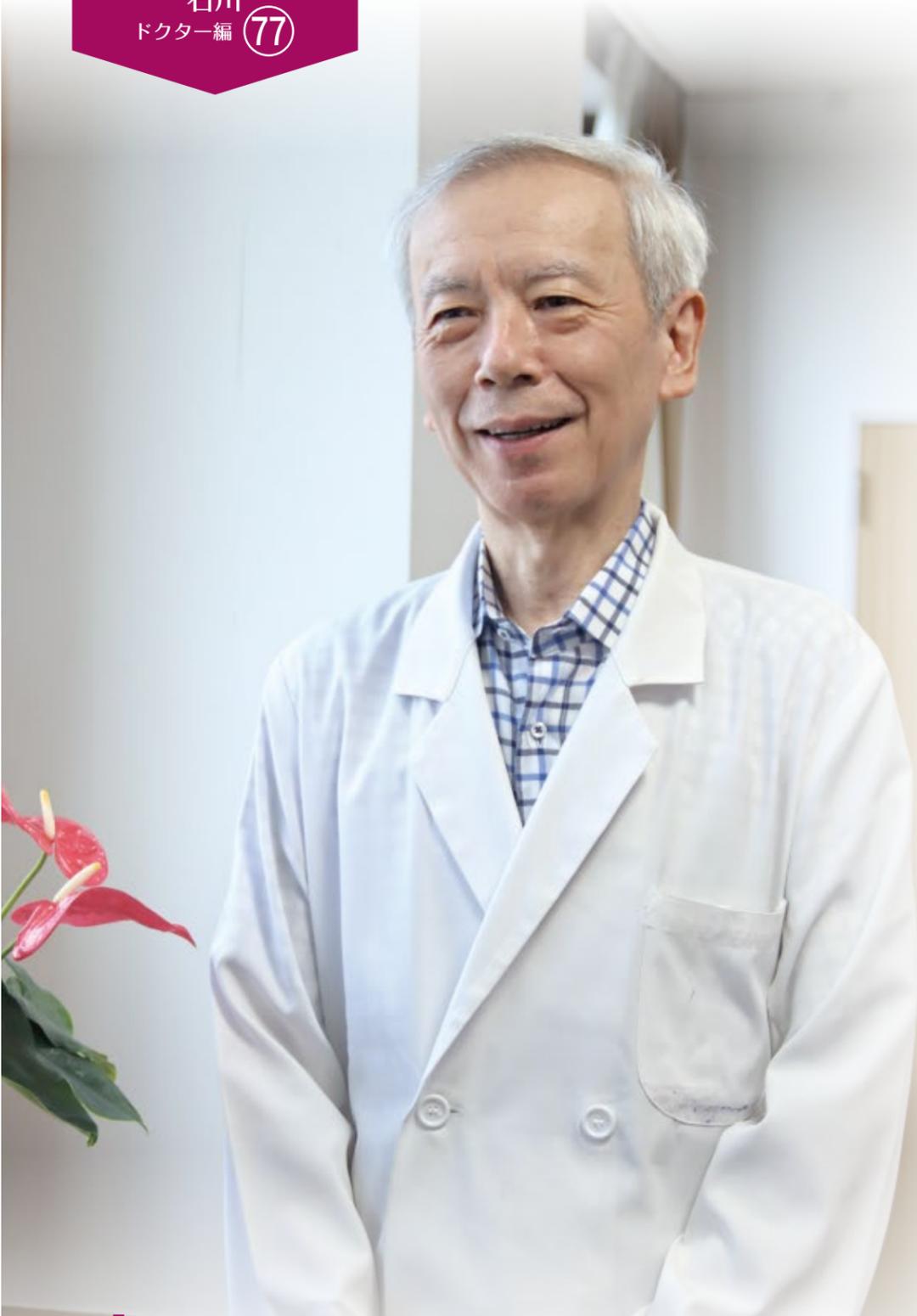


地域医療への貢献 先端医療を推進しさらなる充実を



浅ノ川総合病院 病院長

あらき いちろう
荒木 一郎氏

1981年 金沢大学医学部医学科卒業
1988年 日本赤十字社 富山赤十字病院 内科
1990年 医療法人社団浅ノ川 浅ノ川総合病院 内科部長

2010年 医療法人社団浅ノ川 浅ノ川総合病院 副病院長
2012年 医療法人社団浅ノ川 浅ノ川総合病院 統括副病院長
2017年 医療法人社団浅ノ川 浅ノ川総合病院 病院長

北陸の民間病院では屈指の規模と設備を有する浅ノ川総合病院。2020年発生の新型コロナウイルス感染症にいち早く対応し、がん治療において常に最先端の医療機器を導入。高度な地域医療に取り組む荒木病院長にお話を伺いました。

新型コロナに即対応 感染対策のレベルアップ

新型コロナウイルス感染症の発生当初、治療の最前線に立つことになったのは公立病院ですが、私も県の対策会議に参加して、民間病院だからと手をこまねいてはならないと、患者さんの受け入れを決めました。対策会議には未曾有の事態に立ち向かう医療人の気迫が満ちていて、当院の感染対策チームにも会議の様子を見てもらい、その熱意を共有しました。

当院には感染管理認定看護師が多く、感染対策チームはハイレベルです。率先したこと、感染対策への理解が職員全体に行き渡りまわっています。また、院内でもスタッフ

フが中心となって感染管理認定看護師の講座を実施しています。感染対策のレベルもさらに上がり、どこへ出しても恥ずかしくないチームだと自負しています。

最新機器を積極的に導入 諦めないがん治療を

先進医療については特にがんの放射線治療に注力し、時代に先駆けて、ガンナイフやノバリスを取り入れました。ガンナイフは2016年にバージョンアップし、何カ所も

の脳腫瘍に同時照射ができるようになっています。ノバリスは2004年に日本で初めて当院が導入した

定位放射線治療装置で、病巣に合わせて放射線の形や強さを変えることができます。そのノバリスを今年5月に最新鋭の「Versa(バーサ)HD」に入れ

替えました。対応できるがんの種類が増え、呼吸によって動いてしまう病巣を自動追尾できるので、照射の精度が格段に上がっています。治療時間も短縮され、患者さんの身体への負担が大幅に軽減されました。また、温熱療法機と高気圧酸素治療機も導入しました。ともに、抗がん剤や放射線の効果を倍加する治療機です。例えば、体力のない高齢者で、通常の半分しか抗がん剤が使えない場合でも、これらを併用することで、通常量の抗がん剤と同じ効果を上げられます。

次の時代を見据えて 5年後に新病院を開院

浅ノ川病院グループは5つの病院と1つの老人保健施設を運営しています。病院長就任時から互いの連携をどう強めていくかが課題でしたが、このたび、当院と心臓血管センター金沢循環器病院を統合して、新たな病院をつくることになりました。現在、次世代を担う若手の医師を中心に新病院の構想を立てており、開設は2029年を予定しています。2つの病院の強みを生かして、地域医療への貢献をさらに進めていきたいと考えています。



最新の半導体PET-CT。アルツハイマー病の検査にも対応

人工内耳を活用し 乳幼児の難聴を手厚くサポート



金沢大学 医薬保健研究域医学系
耳鼻咽喉科・頭頸部外科准教授

すぎもと ひさし
杉本 寿史氏

1997年 金沢大学医学部医学科卒業
2002年 金沢大学博士課程修了
金沢大学がん研究所分子薬理にて研究
2009年 金沢大学附属病院助教

2013年 Gruppo Otologico (イタリア Piacenza) にて臨床留学
2014年 金沢大学附属病院講師
2021年 金沢大学附属病院臨床教授
2022年 金沢大学医薬保健研究域准教授

さまざまな理由で音が聞こえにくい状態になる難聴。近年、画期的な治療法として「人工内耳」が世界的に普及しています。小児の人工内耳手術が受けられる金沢大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科の杉本寿史准教授に現在の取り組みをお聞きしました。

**精密機械のような耳の構造
難聴は音の伝達経路の障害**

人間の耳は複雑な精密機械のような構造になっており、外側から、外耳・中耳内耳の3つの部分に分かれています。外耳と中耳がキャッチした音の振動は、内耳で水の振動に変換され、さらに電気信号となって脳に伝わり、音として感じることができます。

そのいずれかの段階で障害が起こり、音が聞こえにくくなる、または全く聞こえない状態になるのが難聴です。代表的なものに、加齢による老人性難聴、突然発症する突発性難聴、生まれつきの先天性難聴があります。なかでもきめ細やかなケアが必要とされるのが先天性難聴です。難聴のお子さんは言葉を理解し表現するコミュニケーション分野で発達が遅れるリスクがあるからです。日

本では20年ほど前から赤ちゃんの聴力検査を行う「新生児聴覚スクリーニング」が浸透し、「聞こえ」の障害を早期発見する動きが進んでいます。

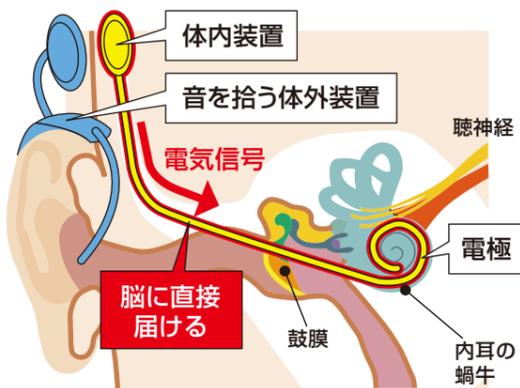
**日本での認知度低い人工内耳
海外ではスタンダード**

「新生児聴覚スクリーニング」で難聴が確定したあと速やかに補聴器の装着をすすめますが、補聴器で聴力の回復が十分に得られない場合1

歳前後で人工内耳が適応となります。人工内耳は現在世界で最も普及している人工臓器の一つです。外耳・内耳に重度の機能障害がある方に対し、人工内耳の電気信号を用いることで聴こえを取り戻します。具体的には、体外部分のマイクで音を拾い、内耳の蝸牛に挿入した電極によって聴神経を刺激して脳に音を伝えます。人工内耳を付けると、ほとんど聴力が失われていた方も劇的に

回復することが多く、非常に有用な治療法です。体内装置は一度埋め込めば交換不要で、体外装置は入浴時や就寝時には取り外します。

海外では積極的に行われている人工内耳ですが、日本では認知度の低さや手術への抵抗感などで装用率は高いとはいえません。当院は2014年に人工内耳外来を立ち上げ、2020年には手術後の傷が目立たない皮膚切開の先進的な方法を開発しました。傷が髪の中に隠れるので、気にせず過ごせると患者さんにも喜ばれています。



**先天性難聴児と家族を支援
ともに歩む伴走者に**

新生児の聴力検査で重度難聴と診断された場合、ご家族は途方に暮れます。そして今後どのような方針で難聴のお子さんを育てていくかを考える伴走者が必要となります。しかし日本では難聴発見後に療育へつなげるシステム構築が地域によりまちまちの状態でした。そこで石川県では聴覚障害教育専門の大学教授、耳鼻咽喉科医師、言語聴覚士の3者で「いしかわ赤ちゃんきこえの相談支援センター（みみずくクラブ）」を開設し金沢大学病院内で活動しています。ここでは精密医療機関で難聴確定後、お子さんの難聴の原因と補聴器や人工内耳による聴覚保証の重要性について説明し、さらに療育機関への橋渡しを行っています。開設からすでに100例以上受け入れ、全国でも難聴児支援の先進的実践例として注目されています。今後も社会全体で難聴児を支えるしくみづくりに貢献していきたいと考えています。

更年期の女性に多い悩み 手指のしびれや痛みの専門医



金沢医科大学形成外科学講師

やぎした みきお
柳下 幹男氏

2007年 金沢医科大学卒業
2009年 金沢医科大学形成外科学入局
2013年 厚生連高岡病院形成外科

2019年 四谷メディカルキューブ 手の外科・マイクロサージャリーセンター
2021年 金沢医科大学形成外科学助教
2023年 金沢医科大学形成外科学講師

手指のこわばり、しびれ、痛みに悩む女性は多く、近年、更年期などによる女性ホルモンの減少との関係が明らかになってきています。これらの症状に詳しい「手外科(てげか)」専門医の柳下幹男先生に最新の治療と予防法について伺いました。

女性ホルモン減少で起こる 関節や腱の炎症

40代以降の女性にしばしば起こる手指のしびれや痛み。その多くは「滑膜の腫れ」によるものです。滑膜は関節や腱の周囲にあり、滑らかな動きを保護していますが、なんらかの原因で腫れて厚くなると炎症が起き、動かしにくくなりこわばるのです。関節リウマチや膠原病の主な症状ですが、検査で対象外となった場合、疑われる要因が女性ホルモン(エストロゲン)の減少です。エストロゲン低下が滑膜の腫れを招くことが近年わかり、更年期障害の代表的な症状として知られるようになってきました。

指の関節が痛い



患には、第一関節が腫れる「ヘバーデン結節」、第二関節が腫れる「ブシャール結節」、親指の付け根が腫れる「母指CM関節症」、腱周りの疾患には、指にひっかかりを感じる

「ばね指」、親指側の手首が痛む「ドケルバン病」、親指から薬指がしびれる「手根管症候群」があります。

痛みの改善が治療の主な目的 予防にはサブリ摂取が効果的

来院する方のほとんどが指の痛みで苦しんでおり、治療はその解決を目的に進められます。まずはテーピングや固定具を使って局所をなるべく安静に保ちます。それでも改善が見られない場合、2〜3か月周期でステロイド剤の局所注射を行います。3回ほど行っても効果がない場合は、それぞれの疾患に添った手術を提案します。手術で痛みはなくなりますが、骨の変形は治りませんので、患者さんの納得感を最優先したケアを心がけています。

安静時や注射通院時には、体内でエストロゲンとよく似た作用を持つエクオールサプリも推奨しています。エクオールは滑膜の腫れを抑えて、こわばりやしびれの軽減、骨の変形予防の効果があるとき

れ、継続摂取して痛みが和らぐ方もおられます。更年期世代で手指に違和感がある方は、早い段階で予防として摂取してみてもよいでしょう。

生活の質を落とす手指の痛み 諦めず「手外科医」に相談を

5年前、最先端の手外科医療を実践する東京の「四谷メディカルキューブ」に在籍し、担当医としてさまざまな手指の症例の治療にあたりました。連日全国から大勢の患者さんが来院され、そのほとんどが更年期世代の女性であったことから悩みの深刻さを実感しました。手指は日常生活のあらゆる場面で使う大切な部位であり、動かしづらさや痛みは生活の質を大きく落としてしまいます。根本的な解決のためには、症状や治療法に詳しい知識を持つ手外科外来にご相談いただくのが最善策です。手外科専門医は日本手外科学会のホームページで探せますので、ぜひお役立てください。